



NISHI EYE HOSPITAL

西眼科だより

Nishi Eye Hospital

第6巻4号

(季刊誌)

2004年10月発行

編集責任者：倉橋美雪

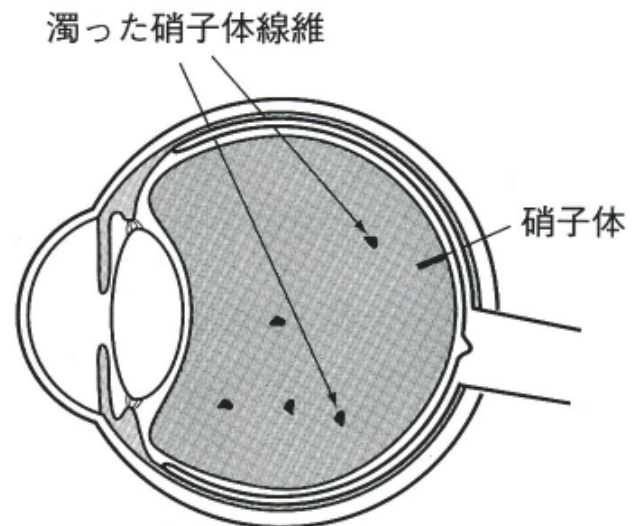
西眼科病院 〒537-0025 大阪市東成区中道4-14-26 TEL: 06-6981-1132
<ホームページ><http://www.nishi-ganka.or.jp> <e-mail>office@nishi-ganka.or.jp

飛蚊症について

白い壁、青い空、白い紙を見つめた時、目の前に黒い点のようなもの、髪の毛のようなもの、または水玉のようなものが動いているのに気づくことがあります。明るいものを背景にした時だけ見え、それ以外の時はわかりません。それは視線を動かすと一緒についてきます。目に何か付いているのか？と思って目をこすってみても取れない、メガネの汚れかと思ってよく拭いても消えません。これを医学的に「飛蚊症(ひぶんしょう)」といいます。この原因として最も多いものは「生理的飛蚊症」と「後部硝子体剥離」との2つです。いずれも老化現象の一種で、特に治療をする必要はありません。またこの他に硝子体出血やぶどう膜炎で硝子体に濁りができた時、網膜剥離においても飛蚊症が起こります。この場合には原疾患の治療が必要です。

硝子体は玉子の白味のようなもので細かい無数の無色透明な線維からできていますが、年をとるとこの透明な線維の中には、濁ってくるものがあります。これはちょうど髪の毛が白髪になるのと同じで、老化現象の一種です。線維が濁ると、それが眼底に影を落とすようになります。硝子体は、どろっとした物質で、眼を動かす度にゆらゆらと揺れ動きますから、それと一緒に影も揺れ動きます。それで眼を動かす度に黒点が飛ぶように見えるのです。

飛蚊症を訴える人は割合に多く、60才頃になると、10人に1人は飛蚊症があるといわれます。しかし、黒点の数が増えたり見えにくくなった時には、出血や網膜剥離などが起こっている可能性がありますので、是非一度、詳しく専門医の診察を受ける必要があります。



LASIK レーシック (近視矯正手術)

LASIKは角膜にフラップ(ふた状のもの)を作成した後、フラップをめくり、エキシマレーザーによって、角膜の表面組織(角膜実質層)を削り、角膜の屈折力を変えることにより「近視」を治す最新の眼科的矯正手術です。この手術後、多くの方々がメガネやコンタクトレンズなしで生活できるようになります。当院では無料説明会を開催しております。ご興味のある方はお友達やご家族でお気軽に御参加ください。スタッフが詳しく説明致します。

無料説明会開催日：2004年11月6日(土)・12月4日(土)および2005年1月8日(土)11:00より約30分間 西眼科病院5階・屈折矯正外来にて。(説明会の詳細は当院ホームページもしくは受付カウンター上のチラシを御覧ください)

光線力学療法 PDT

加齢(老人性)黄斑変性症に対する最新治療の一つです。2004年10月より当院に導入しました。特定の波長の光線を吸収する薬剤を静脈内に注射すると、この物質は主に新生血管に貯留します。そこで新生血管を有する黄斑部に対し特定の波長の光線を照射すると新生血管に貯留した薬剤が反応して新生血管を破壊します。一時的にあるいは長期的にも視力が改善する(5人に1人)場合がありますが、基本的には視力低下の危険度を減少させるところに、この治療の意義があります。詳しくは医師と御相談ください。

年末年始の休診

2004年12月29日(水)午後～2005年1月4日(火)。および1月5日(水)午後のみ休診致します。